

大豆「津久井在来」標準系統の特性

本県の大豆栽培は、在来種「津久井在来」を中心に行われています。「津久井在来」は過去に優良系統の選抜が行われましたが、栽培地域によって子実形質などの特性に違いが生じて来ています。そこで、「津久井在来」の標準的な特性を明らかにするために、相模原市、平塚市、秦野市より収集した系統について、栽培特性の調査及びDNAマーカー多型比較を行いました。その結果、相模原系統の特性が過去に報告されている「津久井在来」と一致し、また、その形質が遺伝的に安定していることを確認しました。

表1 各系統の特性

品種・系統名	開花期 (月. 日)	熟期 (月. 日)	主茎長 (cm)	百粒重 (g)	葉の形	花色	子実		
							形	種皮色	臍色
平塚	8.11	11.2	53.3	31.3	卵形 (鋭先卵形)	紫	偏球	黄	淡褐 (白・褐)
相模原	8.12	11.2	51.3	32.8	卵形	紫	偏球	黄	褐 (淡褐)
秦野	8.14	11.10	71.9	31.3	鋭先卵形	紫	偏球	黄	淡褐 (褐)
参)エンレイ	8.8	11.5	43.0	32.8	鋭先卵形	紫	偏球	黄	黄
津久井在来 (昭和53~56年)	8.18	11.1	57.5	31.6	卵形	紫	偏球	黄	褐 (淡褐)

注) 2010年7月1日播種、10個体について調査を行った平均値。一部の個体のみに見られた形質は括弧内に付記
津久井在来の栽培特性は「大豆「津久井在来」に関する試験成績書」(昭和57年6月発行)より引用



図1 津久井在来の葉及び花

相模原

平塚

秦野



図2 供試系統の子実外観